

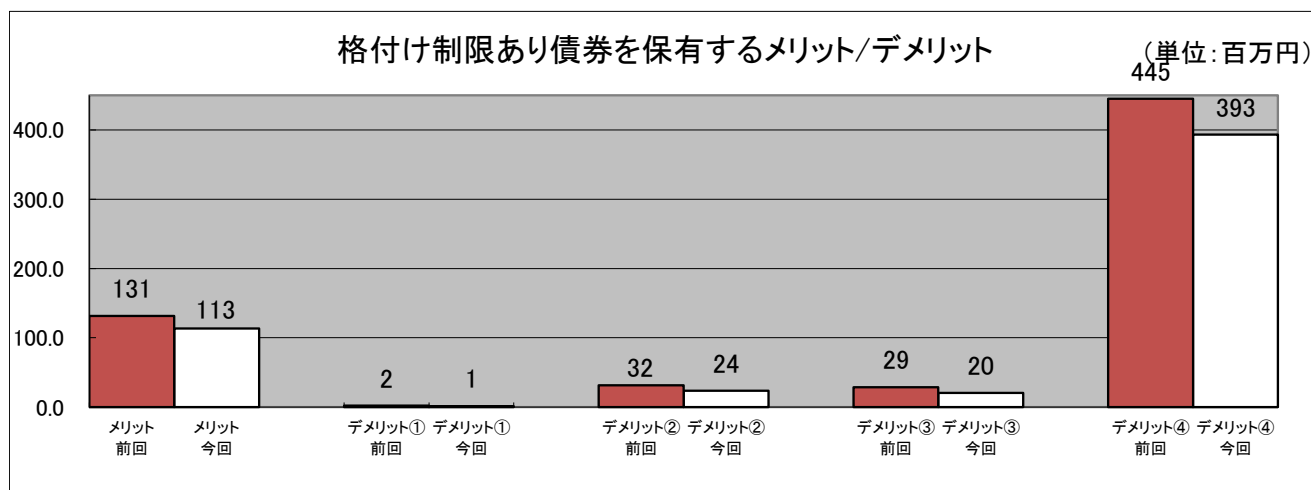
前回検証時(平成24年12月開催資金管理業務諮問委員会にて審議)との比較

平成24年9月末時点での格付け制限あり債券を保有/新規取得するメリット・デメリット(平成24年12月開催の資金管理業務諮問委員会にて審議)と今回の検証とを比較する。

1. 保有資産におけるメリット・デメリット比較

	前回(平成24年9月末)	今回(平成27年3月末)
格付制限あり債券保有残高	1,358億円	1,015億円
格付制限あり債券保有利回り	1.41%	1.48%
国債/政府保証債保有利回り※	1.31%	1.36%
超過収益	131百万円	113百万円
AAからBBBへの確率(過去平均)	0.1%	0.1%
売却単価①	98.50円	98.79円
売却単価②	76.74円	76.74円
発行体当たりの保有残高	19億円	17億円
デメリット①過去平均確率での格下げ/売却単価①	2百万円	1百万円
デメリット②過去平均確率での格下げ/売却単価②	32百万円	24百万円
デメリット③発行体当たりの残高/売却単価①	29百万円	20百万円
デメリット④発行体当たりの残高/売却単価②	445百万円	393百万円

※今回の検証における国債/政府保証債の利回りは、残存8年以下のものを使用。



2. 新規取得することのメリット・デメリット比較

	前回(平成24年9月末)	今回(平成27年3月末)
格付制限あり債券取得額見込み(年度)	103億円	79億円
格付制限あり債券取得利回り	0.90%	0.53%
国債/政府保証債取得利回り	0.82%	0.45%
超過収益(10年分)	83百万円	57百万円
デフォルト確率①(過去平均)	0.61%	0.55%
デフォルト確率②(過去ワースト)	2.54%	2.54%
損失率	90%	90%
デメリット①年度取得額×デフォルト確率①×損失率	57百万円	39百万円
デメリット②年度取得額×デフォルト確率②×損失率	236百万円	181百万円

